

日本文化の祭典 Japan Expo に個性豊かな自治体ブースが出展

パリ事務所

15 周年を迎えた Japan Expo

Japan Expo（以下、ジャパンエキスポ）は、マンガやアニメなどのポップカルチャーを中心に、武道や工芸品などの伝統文化、先端産業などさまざまな日本の文化を展示する、ヨーロッパ最大の日本文化の見本市です。第 15 回を迎える今年は会期を 1 日延長し、7 月 2 日（水）から 6 日（日）までの 5 日間、パリ近郊のノールヴィルパント展示会場で開催されました。来場者数は推計 26 万人（集計中）に上りました。

今回、日本からは、札幌市、京都府、京都市、鳥取県、福岡県・福岡市（合同出展）、長崎県、沖縄県観光コンベンションビューローなど多数の自治体が出展しました。クレアパリ事務所は、JNTO やジャパンエキスポ主催者と協力し、出展する自治体ブースの一体的な配置やブース運営補助などの支援を行いました。

地域の魅力をさまざまな手法で PR

ジャパンエキスポの来場者の多くは、訪日経験者またはこれから日本への旅行を計画している人々です。そのため、フランスからの誘客をねらい、地域の魅力を発信し観光客誘致につなげることを目的とした自治体ブースが多く展開されました。

「創造都市さっぽろ」をテーマに掲げブースを出展した札幌市は、主催者が毎年 1 都市を選定する企画展示に選ばれており、自前のブースに隣接した 36 m²のスペースにパネルを設置。美しい写真などで都市の魅力を PR しました。主要な通路に面した配置だったこともあり、多くの来場者が足を止めてパネルを興味深く眺める様子が見られました。

また鳥取県は、「まんが王国とっとり」として県出身の漫画家などを紹介する展示を行い、注目を集めました。県内のミュージシャンのコンサートなどを行った沖縄県観光コンベンションビューローのブース前にも、連日人だかりができるなど、各自治体がそれぞれの個性を生かした手法で PR を行いました。



主催者展示に選ばれた札幌市のパネル展示

「まんが王国とっとり」を PR した鳥取県

地域産品プロモーションの足がかりに

こうしたなか、少し変わったブース運営を行ったのが長崎県です。同県は、県産品である島原手延そうめんと五島手延うどん、壱岐焼酎、焼き物（三川内焼、波佐見焼）のPRを行う目的で、試食ブースを出展しました。

横長のブースに9メートルのカウンターを設置し、ゆでたてのそうめんとうどん、数種類の焼酎を無料で振舞うというもので、初日からブースは大盛況。麺や焼酎を味わった来場者の多くがアンケートに協力し、率直な感想を書き込んでいました。フランスではなじみの薄い麺や焼酎について、「ぜひパリでも買えるようにしてほしい」「焼酎はすっきりしていて食前酒にぴったり」など好意的な意見が数多く寄せられていたようです。

ジャパンエキスポは食品専門の展示会ではなく、来場者のほとんどは食のプロではありません。しかし、彼らは日本文化のファンであるだけに意見聴取に協力的で、広く消費者の生の声を聞くことができます。地域産品のプロモーションのスタートとして、一般のフランス人の嗜好を知るうえでは非常に良い機会であると感じられました。



県産品の試食を行った長崎県ブース

具体的成果を狙った経済活動の場として

福岡県と福岡市は、今回「FUKUOKA」として合同でブースを出展しました。このブースで福岡市は、地域の企業が手がけるアニメ・ゲームなどのデジタルコンテンツや関連商品をフランスで紹介するため、製品や作品のデモ映像などを展示。多くの来場者の関心を集めました。

今回、福岡市ではフランスのコンテンツバイヤーなどとの会談を行い、実際に商談に結びついた案件もあったそうです。ジャパンエキスポでは会場内に「B to B スペース」が設けられ、出展者と来場者のマッチング及び商談が可能になっています。単にコンテンツを展示して一般客にPRするだけでなく、訪れた業界関係者にコンタクトをとることで、ジャパンエキスポは具体的なビジネスを展開する場として活用することもできるのです。



福岡市はアニメ・ゲーム関連の産業をPR

ジャパンエキスポにあわせパリ市内で PR も

福岡県は、ジャパンエキスポ期間中の7月3日に、在フランス日本大使公邸において県のプロモーションを行いました。小川洋知事がみずから福岡県の魅力を語り、県産品の日本酒やお茶、料理でフランス人のゲストをもてなしました。さらに小川知事はジャパンエキスポ会場にも足を運ばれ、福岡ブースで来場者に八女茶の試飲をすすめるなど、積極的に福岡県を PR しました。

熊本県からは、昨年に引き続き県営業部長のくまモンがジャパンエキスポに参加。ステージイベントでは観客と一緒に得意のダンスを披露し、昨年同様に会場を大いに湧かせていました。またジャパンエキスポ前日の7月1日には、パリ市内のチョコレート店で県産品を使ったチョコレート作り体験と試食会のホスト役をつとめるなど、PR 活動を展開しました。

パリはヨーロッパの中心都市のひとつであり、世界に向けて情報を発信するためにもってこいの場所といえます。ジャパンエキスポ出展に併せてパリで独自の PR 活動を行う自治体が、今後とも増えるかもしれません。



昨年に引き続き登場したくまモン

伝統文化の紹介ステージで JETOB も活躍

ジャパンエキスポでは、日本の伝統文化を紹介するステージも用意されています。今年は居合道のエキシビジョンが行われ、フランス JETAA (JET の OB 組織) 会長であり無双直伝英信流居合道誠心館フランス分館館長のイライザ・ミーカーさんが、演武を披露しました。

ジャパンエキスポでは、毎年こうした JETOB たちの活躍が見られます。アニメやゲームだけではない、日本の伝統的な文化の紹介は、日本を深く理解している彼ら JETOB ならではの活動といえるでしょう。



居合道の演武を披露するミーカーさん

次回に向けて——目的にあわせた出展内容の模索

ジャパンエキスポへの自治体の出展はすっかり定着した感があります。今年はそれぞれの自治体が、単に地域を PR するにとどまらず、地域産業の振興や地域産品の販路拡大など、観光促進以外の目的をもって出展するケースが増えた印象で、出展形態の進化／深化が進んでいるように感じました。

今後もパリ事務所は、ジャパンエキスポなどヨーロッパにおける展示会や見本市に出展される自治体をサポートさせていただきます。検討段階からのご相談も随時受け付けております。ぜひお気軽にお問い合わせください。

(谷崎所長補佐 熊本市派遣)

